

聖書:列王記第二10章1～11節

説教:あなたたちに罪はない

はじめに

いつものように前回までのあらすじを振り返ってから今日の箇所を見ていきます。いまからおよそ二千八百年前のこと、北イスラエルの王であったアハブはナボテの畑を手に入れるために妻のイズレエルの入れ知恵でナボテに無実の罪を着せ、合法的にナボテとその一族を滅ぼします。それからおよそ三十年経ったとき、預言者エリシャによって北イスラエルの王に指名されたエフーは、主君のヨラムを倒し、続いてアハブの妻、すなわちヨラムの母親イゼベルを城壁から突き落とし、北イスラエルの十代目の王の座に就きます。今日はその続きとなります。前回もそうでしたが、今日のところでも多くの人たちの血が流されています。この所のどこに神の恵みがあるのか、ともに考えてまいります。

### 1 アハブの七十人の子どもたち

イゼベルを倒したエフーは、アハブ家の主だった人たちに手紙を送り、こう言います。3節。「あなたがたの主君の子どもの中から最も善良で真っ直ぐな人物を選んで、その父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」ひとこと言えば、あなたがたはエフーに忠誠を誓うのか、それともエフーに逆らって戦うつもりなのか、どちらを選ぶのか答えなさい、そういう問いかけです。これに対して長老たちはこう返事した。「だれも王に立てるつもりはありません。あなたのお気に召すようにしてください。」「あなたに刃向かうつもりは毛頭ございません。エフーに従います」と答えた。これを文字どおり信用してよいかどうか。世の中は甘くはありません。嘘が堂々とまかりとおるような政治の世界ですから、当然のことですがすぐには信用しない。本当かどうか証拠を要求する。それでエフーはこう言った。「あなたがたの主君の子どもたちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルの私のもとに持って来るように。」それで次の日、首が入ったかごを送り届けてきたので、忠誠を誓ったことばは本当だとわかった。聖書のこととは言え、最近も首が切られた事件のことがあったので、あまりいい気持ちはしません。話はそこで終わらない。重ねるように11節が続く。

「エフーは、アハブの家に属する者でイズレエルに残っていたすべての者、身分の高い者、親しい者、

その祭司たちをみな打ち殺し、一人も生き残る者がいないまでにした。」

こんなことを読んでいくと、次第に疑問が湧いてきます。エフーは神を信じる信仰者だと言うけれど、他の権力者と同じように自分の地位を守るためにはなんでもする、血も涙もない人だったに違いない。本当にそうだったのか。もう少し細かく見ていきます。

### 2 エフーが語ったこと

#### 1) あなたたちに罪はない

エフーのこのことばに注目します。9節。「あなたたちに罪はない。聞きなさい。私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。しかし、これらの者を皆殺しにしたのはだれか。」

「あなたたち」とイズレエルに住む人々のこと。この町には宮殿があって、そこにはアハブ、イゼベル、そしてヨラムが住んでいました。その町の人々に開口一番最初に告げたのが「あなたたちに罪はない」ということばでした。もう少し詳しく言い直せば、「あなたがたはすべて、神の前では罪のない義なる住民である。」どうしてこんなことを語るのでしょうか。それだけではありません。エフーは続けてこうも語るのです。

#### 2) 私がした

「私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。」

自分が主君を裏切り、殺して王の地位を奪ったと言っている。たとえ事実だとしても、こんなことを真正面から言ってしまうと、王としての正当性に疑念を抱かせることとなります。なのでこんな場合、この国を守るためにやむにやまれず自分は王になったのだとか、それらしい理由をこしらえて国民に訴えるでしょう。

#### 3) アハブがイスラエルに罪を犯させた

ところがエフーは、イズレエルの人々には罪はないと言い、自分のしたことはつつみ隠さず、そのまま人々に伝えます。

その理由については彼自身が語っています。「これらの者をだれが殺したのか」と問いかけてから、10節でこう続ける。「だから知れ。主がアハブの家について告げられた主のことばは一つも地

に落ちないことを。主は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされたのだ。」

「これらの者」とは、人々の目の前に積まれているアハブの七十人の子どもたちもそうですが、ヨラムやイゼベル、そして家臣も含まれます。「主は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされた。」それは、あのナボテの畑事件が起きたときにエリヤが語ったことばのことです。列王記第一21章21, 22節。「今わたしは、あなたにわざわいをもたらす。わたしはあなたの子孫を除き去り、イスラエルの中の、アハブに属する小童から奴隷や自由の者に至るまで絶ち滅ぼす。(中略)それは、あなたが引き起こしたわたしの怒りのゆえであり、あなたがイスラエルに罪を犯させたためだ。」

エフーは「あなたたちに罪はない」と言えるのは、エリヤのこのことばがあったからです。「あなたがイスラエルに罪を犯させたためだ。」

では、アハブがイズレエルの住民に犯させた罪とはなにか。いったいどんなことを彼らはしたのでしょうか。

#### 4) 忌まわしい事件

話はナボテの畑事件に戻ります。ナボテが畑を売りわたすつもりが全くないと分かったとき、イゼベルは町の人々にこんな手紙を書いた。「ナボテを民の前に引きだし座らせ、彼の前に二人のよこしまな者を座らせて、彼らに『お前は神と王をのろった』と証言させなさい。そして、彼を外に引き出し、石打ちにして殺しなさい。」(列王記第一21章9, 10節)

この手紙を受け取ったイズレエルの人々は、指示に従ってナボテを殺しました。おそらく人々にとっても思い出したくない忌まわしい事件だったはずです。ナボテが信仰者であることはだれもが知っていました。殺される罪がないことはだれの目にも明らかです。けれども、もしここで「イゼベルとアハブは間違っている」と声をあげたらどうなるかも知っていました。今度は自分が殺される。それを考えたらだれもアハブに逆らうことはできない。ずるずるとナボテ殺しに手を貸していった。これが人々がやったこと。思い出したくない。忘れようとみな思っていた。

それから三十年経って、エフーがアハブの家の者をさばいていく。そうしたらだれもがああ忌まわしい事件のことを思い出し、自分たちもエフーにさばかれるのではないかと恐れ始めたのです。エフーはそのことを知っています。だからまず最初

に、この罪の責任はアハブにあって、あなたがたにないと言ひ、エフー自身もまた、主君に対して謀反を起こし、彼を殺した者であると語り、自分もあなたがたと同じ立場にあると語りかけます。もし、あなたがた罪ある者であるなら、自分もそうである。しかし主はそんな私たちに対して、エリヤを通して語ってくださった。すべての罪はアハブにある。だからアハブ一族がさばかれている。私たちは赦されているのだと告げます。

### 3 神

#### 1) 罪の赦し

これを聞いて皆さんはどう思われるでしょうか。二つ意見があるでしょう。一つは肯定的な意見です。イゼベルに脅かされてナボテ殺しに手を貸さざるを得なかった。イズレエルの人々は被害者だった。だから無実だと言われるのは当然である。二つ目はこれと反対の否定的意見です。どんなにイゼベルが恐ろしかったとしても、無実の人を殺すのは絶対に赦されない。律法には殺してはならないとあるではないか。エフーの言っていることには納得できない。

おそらく自分が同じ立場になって初めて問題の深刻さを実感するのだらうと思います。今日はちょうど広島に原爆が落ちて78年目の記念日にあたりますが、敗戦記念日が近づくと毎年新聞でも戦争経験者の体験談を特集します。空襲に遭って家族や友人を亡くしたという記事は多く見かけるのですが、自分が兵士としてどんなひどいことをしてきたのか。ほとんどの人は口を閉ざして語らない。それでも何人かの方が語ってくださっています。先日の新聞に出ていた記事ですが、飢えて食べるものがなくなったとき、何が起きたか。ことし百歳を越えた元兵士という方が証言されていました。聖書に書かれているとおりで。人が人の肉を食べるという忌まわしいことが起きていた。絶対にこのことだけは語るまいと思っていたのに、なぜいまになって語り始めたのか。やはり人としてやってはならないことをしたという罪の自覚があるからではないですか。

#### 2) 罪を自覚する

イズレエルの人々も同じでした。ナボテの畑事件のことは忘れようと思っても、ふとあのときのことを思い出してしまう。そのたびに心が痛みます。あんなことはすべきじゃなかったという自分。いや、ああするしかしかたがなかったと言い訳する自分。この二つの間で苦しんでいく。なぜ苦しむの

か。新聞で証言されていた元兵士の方と同じです。罪の自覚があるからです。しかしどうすることもできません。苦しい思いを墓場までもっていくしかない。

そんな私たちに神はどうされたか。エフーは告げました。「あなたたちに罪はない。」自分を責めなくてよい。安心しなさいと言います。そうしたら私たちはどうなると思いますか。逆説のように聞こえるかも知れませんが、自分がしてきたことをもう隠す必要がないということになる。はっきりと自分のしてきたことをことばにして語るができる。

「あなたたちに罪はない。」勘違いする方はいないと思いますが、念のために言っておきます。だからなにをしてもよいと言っているのではない。

### 3) 十字架のイエス

むしろ逆です。神の方から先に、無条件で罪の赦しを示されているのです。それがわかったとき、私たちは他人のせいにすることもなく、社会のせいにすることもなく、まさに自分のしたことだと受けとめて、まっすぐにごまかすことなく罪を語ることができる。その最もよい実例がエフーです。エフーは、王でありながら自分は罪人であると国民の前で告白していった。そこに彼の信仰が表されています。

イエス・キリストの十字架がはっきりと目に見えるように示されているのは、そのためです。私たちは神の一方的な恵みによって赦されているのだと語っています。背負ってきた重荷をこの方の前で下ろし、神の赦しに預かりたいと願います。